

① 3小学校を統合する必要性

ご意見	教育委員会の考え方
○きめ細やかな指導や見守りができるため、小規模校のままの方がいいと思います。 ○クラス替えができることがより良い教育だという教育的な根拠は示されていません。	子どもたちが、多様な考えにふれ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切であり、その教育効果を十分に上げるためには、一定の集団規模が必要です。そのため、いずれも小規模校の状態が続いている3小学校の統合を早急に進めたいと考えています。 小規模校には、「学校行事で活動の場を与えやすい」、「一人ひとりの子どもにきめの細かい指導がしやすい」といったよさがありますが、その一方で、「クラス替えができないことにより人間関係の固定化が生じやすい」、「体育の球技などの集団学習、班活動やグループ分けなどに制約が生じる」、また、「指導上課題がある子どもの行動にクラス全体が影響を受けやすくなる」等といった課題があります。
○小規模校と適正規模の学校とでは、教育や子どもたちの成長等にどのような違いがあるのか、実証的に説明してほしいです。	小規模校では、適正規模の学校と比べて、行うことができる活動に限りはありますが、少ない人数なりに充実した学校生活となるように、精一杯の工夫と努力を重ねて教育活動を行っています。教育活動や子どもたちの成長においての違いについて実証されたデータはありません。 なお、これまでの統合したケースでは、統合後の子どもたちに対してアンケートを取っており、下記のような結果が出ています。 Q:「人数が増えましたがそのことをどう思いますか」 A:丸の内小 「良かった」約7割、「まあまあ良かった」約2割 A:たかしま小 「良かった」約6割、「まあまあ良かった」約3割 ※2校ともに約9割の児童が「良かった」「まあ良かった」と回答しています。 Q:「人数が増えたことで、友だちや遊びについてどのように変わりましたか？」 A:2校ともに、約8割の児童が「友達が増えた」と回答しています。 これらの結果は軽視してはいけないものと考えており、これは望ましい教育環境にした結果、子どもたちにこのような変化があったことを実証的に示すものだと考えています。

○本地丘小と森孝東小の２校だけを統合すればよいと思います。	本地丘小、森孝東小、森孝西小はいずれも小規模校であり、特に本地丘小の小規模化は著しいため、早急に小規模校の解消に取り組んでいきたいと考えています。 本地丘小と森孝東小だけを統合しても小規模校のままとなってしまいます。そのため、森孝西小を含め３校の統合が必要であると考えています。
-------------------------------	---

② 統合校の場所

ご意見	教育委員会の考え方
○通学距離の目安の小学校２kmについて、どのような根拠により定めているのでしょうか。	国では、学校を適正な規模にするための統合における通学距離の基準として、概ね小学校が４km、中学校が６kmと規定されていますが、本市の小学校は概ね２km以内、中学校は概ね３km以内で通学路を設定している学校が多い実情を踏まえ、「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」では統合校の通学距離を小学校２km、中学校３kmを目安としています。
○統合場所は、森孝東小の場所の方がよいと思います。	森孝東小の場所を統合場所とする場合は、森孝西学区から２kmを超える地域があるため、通学の負担が著しく大きくなる子どもが出てしまうことから、妥当ではないと考えています。

③ 現在の森孝中の場所に小中併設校を設置すること

ご意見	教育委員会の考え方
○なぜ森孝中も同じ敷地内に併設する必要があるのですか。	中学校の教育活動において、体育の授業や体育祭、部活動などを現在と同様に行うためには、運動場をできるだけ広く確保することが望ましいと考えており、森孝中の敷地が最も広く、運動場面積を広く確保できるため、現在の場所が最も適していると考えています。
○４つの学校が森孝中の場所でひとつになるのは、敷地が狭いと思います。	小中学校の併設校は森孝中の敷地だけで教育活動が可能であると考えています。 地域の方や学校現場等から運動場の広さについて心配の声をいただいたため、中学校部活動を中心として、より充実した活動ができるよう、森孝東小の運動場をサブグラウンドとして活用する計画案としました。
○小学校は森孝中の場所で統合し、森孝中は森孝東小の場所へ移ればよいと思います。	中学校の教育活動において、体育の授業や体育祭等をできるだけ現在と同様に行うためには、運動場の２００ｍトラックや１００ｍコースの確保、武道場などの確保が必要であると考えています。森孝中の場所では確保が可能ですが、森孝東小の場所では、２００ｍトラックや１００ｍコースの確保が難しいことに加え、武道場などを新たに必要とするため、十分な面積を確保できないと考えています。

④ 小学校と中学校の併設での学校生活

ご意見	教育委員会の考え方
○体格が大きく違う小学校低学年と中学生が同じ校舎で生活するのは、接触の危険があるなど安全面で心配です。	校舎については、階層別に低層階を小学生、高層階を中学生が主に使用する教室等を配置し、昇降口を別々にするなど、日常生活で子どもたちが接触する機会が少ないような設計を検討していきます。 また、体育館についても、中学校用と小学校用兼武道場を整備するよう検討していきます。図書室など共通で使うことを想定している施設については、使い方について学校の中でルールを決める等の工夫により対応したいと考えています。
○運動場の利用について、体格が大きく違う多くの子どもたちが、制限されることなく安全に利用できるのか疑問です。	子どもたちが学校で生活する時間で運動場を使うのは、体育の時間、休み時間、授業後の部活動の時間があります。 まず、体育の時間は、教員の管理下で行われ、また、小学校と中学校とで時間割で分けながら実施していくことを想定しています。 次に、休み時間については、中学校は、昼休み以外は運動場で遊ぶことは基本的にはないのが現状です。昼休みの時間帯を上手く分けることで運用できると見込んでいます。 体育の時間割や休み時間等の日課については、運用の可否について具体的に検討し、運用が可能であると考えています。(詳細は別紙2を参照。) 最後に、部活動については、小学校の新しい運動文化活動は併設校の運動場で行うことを想定しています。中学校の部活動は、運動場に加えてサブグラウンドも活用することも想定しており、小学校の活動と中学校の運動部とで運動場をうまく分けながら使用することで、十分なスペースで活動できると考えています。
○小学生が思い切り遊べなかったり、中学校はテストや受験などもあるので小学生の声を気にしたり、お互いに気になりストレスを抱えることが多くなると思います。	同じ敷地内で小学校と中学校を運営している笹島小中学校に、小中学校間で起こるトラブルについて聞き取りをしたところ、トラブルは大小に関わらず聞いておりません。階層をしっかりと分けているうえに、用事が無い時には互いの階層には行かないというルールを徹底していると聞いており、声がうるさいという意見も聞いておりません。 ただ、小中学校を併設することで、子どもたちの学校生活にストレスや負担とならないよう、十分に配慮しながら検討していきます。

○統合に伴って子どもたちの生活環境に大きな変化があることによって、友達づくりをはじめとして、心に負担が掛かることを心配しています。子どもたちの心のケアについて教えてください。	統合は、子どもたちにとって環境が大きく変わるので、不安を感じることがあると考えています。その不安への対策のひとつとして、統合を決定した学校では、スクールカウンセラーが講師となり、「新しくできる友だちと仲良くなること」や「困った時に周りの大人と相談すること」を学ぶ「心の学習」を全ての学級で行っています。 また、統合前に、統合する学校の子ども同士で交流を行っていくことが大切なことであると考えています。これまでの統合校では、下のような交流活動を行い、統合に対する不安を減らし、統合を楽しみに思えるような取り組みをしています。 ・ 中津川野外学習のキャンプファイヤー、科学館のプラネタリウム投影の見学を合同で実施。 ・ 同じ学年の子どもたち同士で交流会を開催。 ・ 作品展の際に、相手校へ行って作品を見て、メッセージカードを送る。 等
--	---

※先進的に取り組んでいる他の自治体等の状況についても調査しており(詳細は別紙3を参照)、それらも研究し、新しい併設校に生かしていきたいと考えています。

⑤ 通学の安全

ご意見	教育委員会の考え方
○通学距離が延びることにより、交通事故や熱中症等のリスクが増加します。	交通安全対策については、警察や土木事務所など関係機関と連携し、必要に応じて新たな整備をするなど、安全に通学ができるような対策を検討していきます。 熱中症対策については、教育委員会から学校に対し、酷暑期における健康管理について周知しており(詳細は別紙4を参照。)、その通知に基づき、新しい学校において適切に対応していきます。 なお、これまでの統合校では、日傘の使用や首を冷やすグッズ、スポーツドリンクの携帯を認めている学校もあります。また、通学支援員を配置し、通学に慣れるまでの一定期間、一番遠い分団と一緒に学校まで登校する等の対応をしており、安全な通学にも配慮していきたいと考えています。
○現在の森孝中の北側通用門の周辺は、歩道も狭く歩行者や自転車の通行量も多いので、危険です。	通学路は、最終的に学校が決めるものですが、例えば、香流川沿いの緑陰歩道を利用し、南門から登下校することも含め、道路・交通の状況や周辺環境なども踏まえて、子どもたちが安全に通学できるような通学路を検討していきたいと考えています。

⑥ 地域活動への影響

ご意見	教育委員会の考え方
○小学校が統合されて小学校が無くなった街は寂れるのではないのでしょうか。小学校を失った地域には、子育て世代が簡単には移ってこなくなると思います。	これまでの統合校の事例では、学区活動については、従前と同じ学区単位で活動をしていただいています。統合校の児童数についても、統合後に大幅に減っている学校はなく、統合後に学区活動が無くなった事例もありません。
○学校跡地はどうなるのでしょうか。	学校跡地の活用方法は、今後、名古屋市全体で検討することになりますが、これまでの統合事例では、避難所や地域活動の拠点は確保されています。

⑦ 工事期間中の仮校舎での生活

ご意見	教育委員会の考え方
○本地丘小と森孝東小の児童数を比べたら、森孝東小の児童の方が多いのに、工事期間中の仮校舎として、森孝東小の児童が本地丘小の場所に通うのはおかしいと思います。 ○学習環境がたびたび変わることは、子どもにとっても親にとってもとても負担です。	仮校舎への移転に関して、子どもたちや保護者の方に大変ご負担をおかけすることについては、大変申し訳ございません。 ただ、本地丘小の場所でも森孝東小の場所でも、小学校は教育活動を支障なく行えると考えていますが、一方で、本地丘小は森孝東小よりも運動場が狭いため、中学校の教育活動への支障がより大きくなると考えられます。これらのことから、森孝中の仮校舎は、森孝東小の場所の方が適切であると考えています。

⑧ 小中一貫校から小中併設校への変更

ご意見	教育委員会の考え方
○令和2年1月にはじめて統合計画についての説明を聞いた時に、この統合によって小中一貫校をつくと説明を受けました。それがいつの間にか、小中一貫校ではなく、単なる併設校という説明に変わりました。 なぜ変更になったのか、変更になった説明もなしにいつの間に併設校ということになってしまったのか、統合計画の基本の部分を変えたのなら、もう一度最初からやり直すことが普通ではないのでしょうか。	ご指摘のように統合計画の説明の途中で変更が生じたことにつきましては、意見交換会でもお答えし、お詫びしているところです。 令和2年の計画説明当初は、小中一貫教育を「組織や施設の統合(ハード面)」と「教育内容の充実(ソフト面)」の両面から進める前提であったため、森孝中ブロックにおきましても「小中一貫校」の設置をご提案しておりました。 しかしその後、小中一貫教育の推進に係る有識者等懇談会の議論を経て、教育委員会として本市が目指す小中一貫教育についての考え方を整理し、まずは学校間の連携促進等により、一貫教育を推進することといたしました。一方で、「組織や施設の統合」といったハード面につきましては、今後の状況を見極めながら継続して検討していくことといたしました。 そのため、説明内容を変更していますので、ご理解ください。